

第16回銀華文学賞 中間発表 二次・三次・三次予選

●第16回銀華文学賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで、日本全国から総数二〇七編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る四月三〇日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。

無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。長いタイトル、複数タイトルは短く省略させていただきます。

第16回銀華文学賞中間発表 一次・二次・三次予選

- 北海道
- 「二通の手紙と六月の風」 遊佐秀憲
 - 「清さの姫」 藤川とみ枝
 - 「小部屋」 近藤ゆみ子
 - 「謝絶の日」 家田 満
 - 「小さい恋物語」 団周五郎
 - 「革のトランクケース」 月居まおこ
 - 「壊れた腕時計」 青木ガリアン
 - 「ノアガーデンエリザベス」 栗山佳子
 - 「near him」 山本御覧
 - 「羽ばたくために」 坪田節子
 - 「父と電子レンジとトウモロコシ」 広瀬美月
 - 「最後の嘘」 高岡啓次郎
 - 「愛のかたち」 東岡征子
- 青森県
- 「大湊開港運動の旗手」 竹浪和夫
- 岩手県
- 「発達障害家族」 望月遠子
 - 「青ライオンの夏」 及川 康
 - 「擬似家族」 中里治人
- 宮城県
- 「短軀」 勝山 稔
 - 「なっちゃん」 にやぎ
- 山形県
- 「好日の好々爺」 大谷 努
- 福島県
- 「魚幻」 塩崎憲治
 - 「メビウスの輪」 高橋 健
- 茨城県
- 「老齢になってもなお」 菊池浩二
 - 「蛇の戯言」 梅原凜太郎
 - 「夢を追った明治の士」 友 修二

- 「魔女の伝言バス・パークⅡ」 中庭昌樹
- 「好運を呼ぶ男」 左津前 浩
- 「悲願」 平笑丘
- 栃木県
- 「残照」 石川 侃
- 「おみやげ」 平山嗣人
- 「マフラー」 齊藤宏壽
- 「金欄のちぎり」 村川 修
- 「消えない痣」 あぐり
- 群馬県
- 「監督のいない工事」 紙屋里子
- 「風の町」 藤村 邦
- 「十字架の真実」 ユラン
- 埼玉県
- 「白衣の天使」 北川 聖
- 「無垢なる罪」 井上眞子
- 「襟裳岬」 藤木由紗
- 「落陽」 根岸幸安
- 「友なればこそ」 佐久間文治
- 「川を渡って来た少年」 折口 真
- 「終わらないブラックホール」 秋野佳月
- 千葉県
- 「不死鳥と家来」 田村芳郎
- 「佳日」 嶋津治夫
- 「しあわせ探し」 岸田一彦
- 「さくらみ」 八木 宏
- 「天満月」 吉田繁夫
- 「女神様がいる神社」 河野 仁
- 「誰もわからない」 高橋ひとみ
- 「レイクパウエル」 山田 明
- 「晩秋」 影山 透
- 「不等号な私たち」 千 楓
- 東京都
- 「桜の季節に」 小室澄江
- 「揺らぐ日常」 中村福子
- 「時の奴隷と時の支配者」 坂本 榮
- 「ある夏、サナトリウムで」 朝川 彪
- 「共犯の街」 南田慎一
- 「たまにや家族もいいもんだ」 中トロ
- 「トライアングル」 九条之子
- 「秋彼岸」 牧 康子
- 「三号艇」 今野一成
- 「男と女」 松本昂幸
- 「山野草ラリー」 高尾周一
- 「迷える猫」 荒井りゅうじ
- 「湾岸レストラン」 篠宮あき
- 「二歩、ともに。」 川原正路

第16回銀華文学賞中間発表 一次・二次・三次予選

- 「鰐に告ぐ」 依田 泰
- 「草駄天幫間」 安芸木兎
- 「さよなら、わたしのカリスマ」 あおいなつ
- 「行っではいけない家」 入谷暮明
- 「今日、どこ行く？」 室町 眞
- 「川を渡る」 ミチコ 任
- 「光る葉波」 井上友秋
- 「やじろべえ」 立花野風
- 「恥部を消す」 風樹 茂
- 「ダンナ」 長野正毅
- 「あにい」 邑崎龍哉
- 「七枚の絵」 野中 寛
- 「つぐない」 神山洋平
- 「揺曳」 小野満志呂
- 「音色に変えて」 阿島美央
- 「虹のち晴れ」 夏目るか
- 「花嫁」 深山皐月
- 「ふるさとから遠く離れて」 雪石真琴
- 「紅簪」 山崎ゆのひ
- 「アイ ラブ ユウ」 桐原唯香
- 「人物譚 米軍基地」 姉齒浩一
- 「過ぎ去りし日よとわに」 大嶋岳夫
- 神奈川県
- 「北条氏規」 秋谷 進
- 「菊の頃」 江嶋恭祐
- 「星ヶ丘の海獣」 紋屋ノアン
- 「虚像」 雨原 歩
- 「風花」 在間ミツル
- 「父の成人式」 守尾 六
- 「しあわせのお告げ」 甘江 慧
- 「名取のひと」 坂下次郎
- 「シスターコンプレックス」 宮 幸作
- 「花に風」 沢田進二
- 「伊勢湾台風に出会った日」 黒沢良子
- 「メタモルフォーゼ」 晩学作曲家
- 「モノローグ」 栗山 丈
- 「華燭」 遠嶺そら
- 「白いティータイム」 宮脇すみれ
- 「北の庭」 茅野樹也
- 「北の庭」 鈴木和子
- 「隠居はしたもの」 山本嘉彦
- 新潟県
- 「やまとなでしこ」 ひとりがた
- 「悠日」 悠日
- 富山県
- 「TRUE LOVE」 白河葉
- 「百問川の闇」 立野幸雄
- 「ひたすら前を向いて」 中本泰正
- 「居合と満月」 小倉孝夫
- 「父の不始末」 道 明
- 石川県
- 「父を恋うる人」 門倉まり
- 「金沢の音色に風車」 工藤哲柳
- 「Happy Birthday」 ヴァンペの

- 贈り物」 みやこしこうじ
- 「眩耀」 北山修子
- 福井県
- 「杏と琥珀」 中野智子
- 山梨県
- 「原野のちい」 ふきのとう
- 長野県
- 「素敵な未来図」 五月十二
- 「八ヶ岳の服」 渡辺 勝
- 「虹を架ける」 山崎こうせい
- 「頻出ファンタスマ」 澁 惟眠
- 静岡県
- 「青葉色ランジション」 水先イツキ
- 「月の明るい夜に」 三崎立子
- 「きょうだい」 犀川巳鶴
- 「約束」 藤倉 涼
- 愛知県
- 「夜明け」 朝比奈豆梓
- 「マブイの旅」 北原 岳
- 「夢の手触り」 高倉麻耶
- 三重県
- 「夕風に舞う空蟬」 松田貞子
- 「健陀多」 吉野幸夫
- 「鎮魂の石碑」 谷口俊明
- 滋賀県
- 「声」 奥村郁雄
- 「女と狐師」 原口賢治
- 「何処にもいない女」 藤村羅旬
- 「染井の名水」 梵 真平
- 「君に届け！青春ジャズ」 北条かおる
- 「全国都市対抗野球大会」 伊和七種
- 「戦争の傷あと」 番場次郎
- 「駅が見える理容室」 佐藤 勉
- 「思春期を翔け抜けた少女」 崔宜葉
- 大阪府
- 「スパニョラ」 治武真白
- 「おたつ瀬岩」 夏川 陽
- 「Iさんの物語」 天野秀作
- 「魂の帰果途上」 建三の弟
- 「天空の庭園」 湯浅ひとし
- 「青をさがして」 渡利 真
- 「月の光のたわむれに」 村木 充
- 「検診は不要不急」 須永和子
- 「花筏」 有汐明生
- 兵庫県
- 「自殺マニア」 太田 悠
- 「ZOX」 森田 真
- 「赤いスカートの女」 高橋カナ
- 「偶然と必然」 安久敦子
- 「母のノート」 杉木 節
- 「鞍馬天狗と角兵衛獅子の日」 高瀬甚太
- 「マスク」 六藍光洋
- 「正しい言いぐさ」 待木 啓
- 「物語の続き」 石塚明子

○「罪と罰」	高木敏克	○「霧氷わたる南風」	小原友紀
○「繋がる」	伊吹耀子	●福岡県	
○「幽艶の古都」	永田祐司	○「君と海を渡る時」	柳風亭清三
○「サミング・ニュー」	ふぢ本	○「孤老生活万歳」	満州旅人
○「和歌山県」	かめいのり子	○「見えない斜面」	後藤克之
○「空似」	林 晋作	○「凍心」	波佐間義之
○「老人ホームにて」	神郷愛光	○「俺たちの 平和台」	興膳克彦
●鳥取県	足立悦郎	○「星月夜」	鐸木英莉
○「大空放哉伝」		「あなたからの贈り物」	星野 華
●岡山県		「身上」	花里みちる
○「鬼川」	中崎紫紅	●熊本県	
○「今わの人」	大場莊介	○「二番手」	宮川行志
○「里山を越えて」	栄子	●大分県	
●広島県		○「長い間にはいろいろなことがあ	
「川のためたい」	森田昌樹	るなあ！」	岡 大吉
「道草の先の千日紅」		○「戦争体験談」	爽穂
	みーなつむたり	○「レストラン明星」	椿山 滋
○「宇宙伝説―銀河ひとしづく―」	いまだまりこ	○「ミッドライフクライシス」	松本 馨
●山口県		○「此の夜を如何せん」	ヒロ・ミエノ（仮）
○「タイムカプセル」	木澤 千	○「落魄の森」	笠置英昭
●徳島県		○「野の家」	古羽田良
○「量子の母」	菊野 啓	●宮崎県	
●香川県		○「あの松のふもとまで」	粗木はやひこ
○「生きていきたい」	白峰 綾	○「百済の舞い」	内村光寿
●愛媛県		●鹿児島県	
○「祖父の恋、父の恋」	原 実桜	○「古希の逃避行」	奈賀逸樹
○「静謐」	鷹城恒星		

●沖縄県

○「キセキ」

泉庵

●海外

○「十二月の夏の出来事」 莊百合子

小説の書き方を体験を踏まえて丁寧に解説する小説指導書

小説の書き方

——作家を志す人のために——

五十嵐 勉

税込 1000 円 御注文はアジア文化社まで

■応募者の皆様へ 第一次・第二次・第三次の選考についで

「文芸思潮」銀華文学賞・新人賞への御応募まことにありがとうございます。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に伝わる文章になっているかどうかが最重の基準点となります。また書く姿勢を加味させていただきました。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次を通過しています。また逆に文章は整っていても、書く姿勢が曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきます。この二点をクリアしたものが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありません。したがって、応募者全員が一次予選合格ということもあり得ます。

また第二次予選は、その中でさらに強く何かが感じられるもの、光るものが選ばれます。何かが読み手の中に残っている作品ということになります。一行でもいい、一人の人物でもいい、見方でもいい、何か一つ心に残るようなものがあると、上に

拾い上げたくなるという、一つの魅力を持っているかどうかのポイントになります。

第三次予選は、よりたくさんの人に読んでほしいような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、ほぼ雑誌に載っていい、人に読んでもらっても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残って新たな力になるような作品です。

「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによって、作品を残すよう心がけています。したがって、場合によってはたくさんさんの作品が三次予選、さらにその上に選出される可能性もあります。

どうかこれらの点を御了解くださいますようお願い申し上げます。

またご自身の文章力が具体的にどれくらいレベルか、文章力検定も併せてご利用いただけましたら、文章技量向上の一つの目安になると思います。

（銀華文学賞・新人賞選考委員会）